

おはようございます。同窓会顧問の岡村です。
本日は皆さまとお会いできたことを、心よりうれしく思っております。若い方も年配の方も、海星を愛する仲間がこうして集まったことに、深く感謝申し上げます。

さて、現代社会は混迷を深めています。戦争や分断、自分のことしか考えないリーダーたちの姿に、この時代の「怖さ」を私は感じています。私たちは普通に生きているつもりでも、その影響を大きく受けています。そんな中で、私たちはどう生きるべきか？私は、海星で学んだ一人ひとりの生き方こそが、時代を照らす力になると信じています。

この春、私にとって大きな出来事がありました。教皇フランシスコが12年の務めを終え、帰天されました。彼の存在は私の心の支えであり、生き方の模範でした。彼から私は三つのことを学びました。

一つ目は、神の慈しみと憐れみは私たちの生活の中にあるということ。赦しの愛の大きさを、彼はやさしい言葉で伝えてくれました。

二つ目は、自分の場所にとどまらず、行動を起こすこと。彼は多くの国を訪れ、特に苦しむ人々に寄り添いました。私もまた、「わかった」で終わらず、他者に向かって生きたいと願っています。

三つ目は、出会った人と真摯に対話すること。耳を傾け、共に歩む姿勢が、彼の強さであり優しさでした。

私たちには、いつも行く手を示してくださるマリア様がおられます。
今日は少し視点を変えてお話したいのですが、私は最近、マリア様が「私の横にいてくれる存在」だと感じるようになりました。これまでのように、遥か先を指し示してくださるお方であるだけでなく、共に歩いてくださる方。寄り添いながら、私たちのすぐそばを静かに歩いてくださるのです。イエス様がいつも共におられるように、マリア様もまた、私たちとともに歩んでくださっているのだと、日々感じています。

人生には始まりがあり、終わりがあります。海星も多くの人を育み、社会へと送り出してきました。その精神は皆さんを通して、次の世代に伝わっていくのだと思います。それは、希望です。植物が芽吹き、花を咲かせ、種を残してゆくように、私たちもそれぞれの場所で「今できること」を見つけ、他者と共に歩いていきましょう。

教皇は「2025年の聖年にあたり、希望の巡礼者となれますように」と語られました。皆さまも、希望の巡礼者として歩いていかれますように、そう願っております。